

静脈セッション

福岡山王病院 循環器センター | 横井宏佳

はじめに

本邦では表在静脈瘤に対して逆流が高度な場合、レーザーや高周波を用いて熱変性で血管を閉塞させるカテーテル治療が2019年より保険償還されているが、深部静脈疾患には承認されたデバイスはなかった。欧米では10年以上前より深部静脈に対して静脈ステント、専用血栓吸引デバイスが臨床使用され、深部静脈に対してもカテーテル治療が行われてきた。本邦では関連学会で臨床ニーズの高い医療機器として厚労省へ申請をあげ、海外臨床試験結果より審査を受け、2022年12月にCOOK社のZilver Vena静脈ステントが、2023年3月にはBD社のVenovo静脈ステントが承認された。また、コロナ禍に伴うウロキナーゼ製造中止問題を契機に関連学会での緊急要請を受け、厚労省で緊急審査が行われ2023年4月にPenanbura社のIndigoが専用血栓吸引デバイスとして承認された。さらに、急性肺動脈塞栓症に対して海外では専用血栓吸引デバイスが使用されており、臨床ニーズの高い医療機器として審査中である。このように静脈疾患に対する専用の静脈デバイスが承認される中で、CVIT会員に静脈疾患診療に関心を持っていただき、適正に本デバイスを使用していただ

くために教育的なプログラムを作成した(図1)。

静脈の基礎、表在静脈疾患

適正に静脈ステント、静脈血栓吸引デバイスを使用するためには静脈疾患の基礎的知識を身につける必要がある。そこで、慢性下肢静脈不全の病態生理、分類と評価法、静脈エコー検査について解説いただく。その後、慢性表在静脈疾患である表在静脈瘤の治療について基本的な圧迫療法からレーザー、高周波のカテーテル治療、新しいVenaseal治療について学ぶ。最後に循環器医として下肢動脈診療から下肢静脈診療にも取り組んだ医師の経験を共有する。

深部静脈疾患

慢性深部静脈不全は下大静脈や腸骨静脈の狭窄や閉塞、および大腿静脈、膝窩静脈の弁不全、逆流により慢性的な下肢の静脈高血圧が引き起こされ、様々な症状を呈する病態である。臨床症状は静脈灌流障害による慢性的な下肢浮腫、重だるさ、下肢静脈の発達、怒張、静脈性跛行(運動時や長時間立位にて大腿部やふくらはぎに疼痛、圧痛が生じる)、鬱滞性皮膚炎、色素沈着、潰瘍形成である。慢性深部静脈不全の要因となる下大静脈、腸骨静脈領域の狭窄、閉塞を生じる病態としては、深部静脈血栓症(DVT)後の慢性期に生じる深部静脈血栓後症候群(Post-thrombotic syndrome:PTS)が知られている。一方PTS

第19会場 Venous

- + 8:30-9:55 SS-6 静脈の基礎、表在静脈疾患
- + 10:05-11:30 深部静脈疾患 (PTS, NIVL)
- + 11:45-12:45 LS 18
- + 12:55-14:20 急性深部静脈血栓症
- + 15:30-16:30 CB 13
- + 16:30-17:55 急性肺塞栓症
- + 17:55-18:55 SS-7 下大静脈フィルター

図1 静脈セッション「Venous」のプログラム(2023年8月4日(金))